Ｎｏ．６４３【２０２５年３月１４日配信】

「津軽一統志」に登場する今（金）勘解由左衛門　その１（担当：工藤大輔）

みなさん、こんにちは。室長の工藤です。

今から約 300 年前の享保 12 年（1727）10 月 24 日付で、弘前藩庁は正史「津軽一統志」の編さんにあたり史料収集を命じる触書（ふれがき）を発します。ここでは 7 つの事柄に関する史料の提出を求めていて、ひとつめが初代藩主津軽為信の代に家臣だった 36 人について、「どのような働きをしたのか伝聞であっても報告し、その子孫は名乗り出ること」というものでした。そして、その 36 人のなかに今（金）勘解由左衛門という人物がいました。

「津軽一統志」（弘前市立弘前図書館八木橋文庫本を使用）に今勘解由左衛門は数回しか登場しません。しかも、名前が記される程度で、人物像・業績などはほぼ「津軽一統志」からは分かりません。それでも私が興味深く思ったのは、天正 13 年（1585）の為信による油川城攻めの「外伝」とでもいうべき記事に彼の名前が記されていることです。

「津軽一統志」の油川城攻めの記事に続いて、これに関する事柄の実否は不詳とされる二本柳家の記録を収録しています。この記録は弘前城が築城される前年の慶長 15 年（1610）頃に書かれたもので、さきの享保 12 年の触書に応じて二本柳家から提出されたものとみています。なお、弘前藩庁は文化 3 年（1806）の津軽為信 300 年忌の際、彼に仕えた家臣の由緒書きを集めた「由緒書抜」を編さんしています。この時に二本柳家から提出された由緒書にも「津軽一統志」に収められたものと類似の記述があり、こちらは『新青森市史』資料編２古代・中世（P.499）に掲載されています。



油川城跡附近
（2011 年撮影、国土地理院の空中写真）

ところで、油川城攻めに際して今勘解由左衛門は何をしたかというと、二本柳重次という人物を為信に推挙し、為信からの命を受けた重次とその仲間たちの働きによって油川城主「奥瀬則開城して南部へ退きけるにより、是より外浜おのつから御手に入ける」ということになったと…という二本柳氏が取り立てられるきっかけとなった人物になります。そして今勘解由左衛門は兼平綱則・森岡信元・小笠原信清の為信最側近に次ぐ序列にあるとこの二本柳家の記録にはあります。

油川城攻めで人ひとりを推挙したことしか記されていない今勘解由左衛門ではありますが、私はこの記述が「青森市の歴史」の謎解きの重要なカギになるのではないかとみています。というのは、弘前藩庁の公式な記録には出てこない、津軽為信による「外浜築城」のエピソードに欠かせない人物が今勘解由左衛門であり、油川城攻めという事柄なのです。これについては、来週紹介いたします。

ちなみに人名事典によれば、「金勘解由左衛門」は下新岡出雲と同一人物で、永禄 7 年（1564）に金備中の家督を継ぎ、元亀元年（1570）頃に勘解由左衛門を名乗るようになったようです。下新岡出雲は「津軽一統志」に 3 回登場しています。



山崎朝雲が製作した津軽為信の銅像
（明治 42 年建立、昭和 19 年撤去）